

SHOW HEY シネマルーム

★★★

デッドコースター

配給/ギガガ・ヒューマックス共同配給

2003 (平成15) 年6月3日鑑賞

<ヘラルド試写室>

Data

監督: デヴィッド・エリス

出演: A・J・クック/アリ・ラー
ター/マイケル・ランデス

👁️👁️ みどころ

この映画のテーマは死の予知能力。ハイウェイで悲惨な事故が発生。自分の車も巻き込まれて、お陀仏……。しかし、これは「予知能力」によって見えた状況だった。「死に神」によって指定された死の順番を「解除」しなければ……。面白いテーマとド派手なデッドコースターだが……。

— * — * — * — * — * — * — * — * — * — * —

<キーワードは死の予知能力>

この映画のキーワードは死の予知能力。そして、「運良く、九死に一生を得た後も、死が追いかけてくる」というテーマ設定に沿ってつくられた映画。友人たちと楽しいドライブに旅立った主人公キンバリー・コールマン (A・J・クック) は、そんな予知能力を持っていた。

<ド派手で悲惨なハイウェイ事故>

高速道路上での交通事故は悲惨。アメリカのハイウェイは、車線も多く車も多いから、時間帯や事故態様によっては、日本よりひどいことになる。この映画でのハイウェイ事故は、大きな丸太を積んだトラクターから、この丸太が荷崩れして落ちてきたのが原因だ。

まず、後続車の運転席を丸太が直撃。そして車の合間を縫って走っていたバイクはなぎ倒された。後は地獄の連続。

そして、キンバリーの車は車線から投げ出されて死亡を免れたものの、そこへ炎上した車が突っ込んできて、遂に、ジ・エンド……。

しかし、幸いなことにこれは、キンバリーの予知能力によって、キンバリーの頭の中だけで見えたものだった。

しかし、「死に神」から死ぬ運命と指定されたものは、たとえ飛行機事故や交通事故で、九死に一生を得たとしても、いずれその指定順序の通りに死ぬ運命にあった。そして「死に神」は、この運命通り、着実に1人1人を悲惨な死に至らしめていった。

<R指定とデヴィッド・エリス監督>

この映画は、R-15指定。これは、エッチ度によるものではなくホラー度によるもの。従って、「死に神」によって次々と死んでいく（殺されていく？）人たちの「死に様」は、実に悲惨だ。私も一度は、急に背中から鳴った音にゾクッとしたほど。しかし怖さという意味では、台湾映画『ダブル・ビジョン』（2003年）の方がよほど怖かった。

監督は、『マトリックス・リローデッド』でアクション監督をつとめたデヴィッド・エリス。『マトリックス・リローデッド』で見たカーチェイスと同じく、派手な『デッドコースター』をつくり上げている。

<死に神の指定解除は・・・>

さて、死に神による死の指定、そして死の順序の指定は、どうすれば解除できるのだろうか・・・？ただ、「座して死を待つのみ」しかないのだろうか・・・？キンバリーたちは、これを必死に考え、1つの結論にたどりつく。そして、その実行に生命をかけたが・・・。さて、その結末は・・・？

<総評>

テーマは単純だが、そのテーマに沿って展開される物語はますます。また、その指定解除の「理論」もある意味では納得できる。しかし、まあ所詮それだけの映画。そういう意味では、あまり深く考えないで、『デッドコースター』を楽しみ（？）、人が次々と死んでいく様を楽しめばいい（？）のかもしれない。

しかし、すべて解決して、最後の楽しい団欒の中で展開される、悲惨な車の爆発と血まみれで黒焦げとなった腕が母親の目の前に飛んでくる、そしてその母親の絶叫でエンドというのは、ちょっとやりすぎでは・・・。

そういう意味で、トータルとしてはB級作品といわざるを得ない。もっとも例によって、スケベおやじの目から観た収穫は、主演のクックともう1人の女優アリ・レーターが可愛かったこと。この可愛さに免じて「楽しかった」と言っておこう。

2003（平成15）年6月3日記